

近代文学研究叢書

第六十三卷

昭和女子大学

近代文化研究所

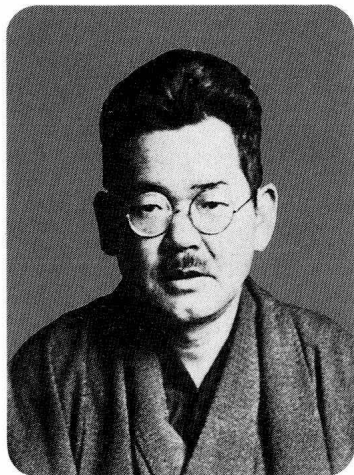
近代文学研究叢書

第六十三卷

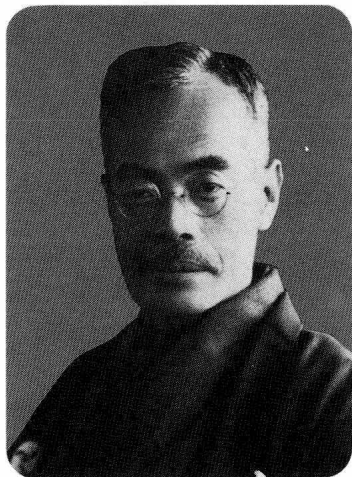
平成2年6月5日 初版印刷発行

定価 6,500 円 (本体 6,311 円)

著者	昭和女子大学近代文学研究室
発行者	三好雄
印刷所	大文堂印刷株式会社
発行所	昭和女子大学近代文化研究所 東京都世田谷区太子堂一七 振替口座東京四一一七〇八六七 電話 03(41)五一二九番



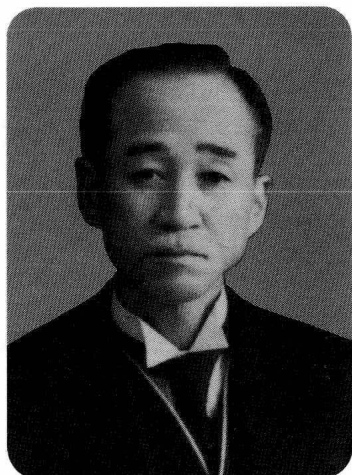
菊池 寛
(1888・12・26～1948・3・6)



高須 梅溪
(1880・4・14～1948・2・2)



千家 元麿
(1888・6・8～1948・3・14)



小林 好日
(1886・8・19～1948・2・11)

高須梅溪

青嵐富士の
裾野をとり行く
高須芳次郎

解類に花びら空に散り
夕日空を赤く陽田川を

自筆短冊

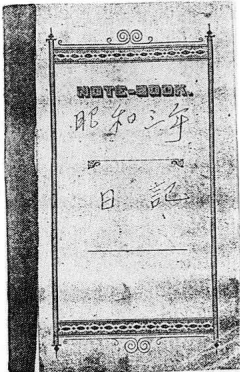
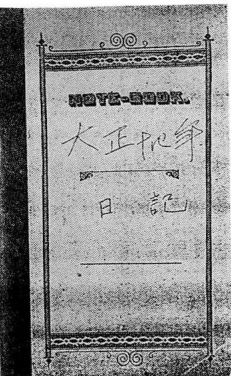
(高須梅之助氏藏)

東洋思想十六講

高須芳次郎著

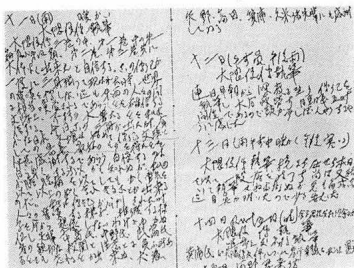
新潮社出版

「東洋思想十六講」
大正14年4月刊

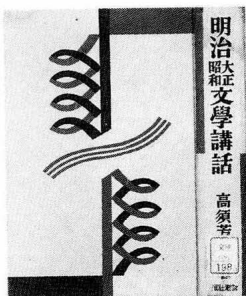


日記

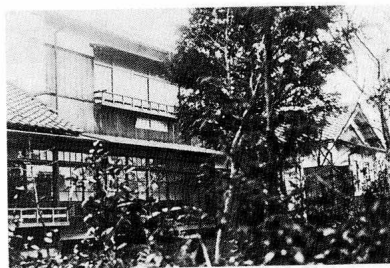
(高須梅之助氏藏)



「近代文芸史論」
大正10年5月刊



「明治大正昭和文学講話」
昭和8年9月刊



旧居（日本学園）写真

掲載書籍 昭和女子大学蔵

高須芳次郎著

本日現代文学十二講

新潮社出版

「日本現代文学十二講」
大正13年1月刊

論史學文治明

高須芳次郎著



「明治文学史論」
昭和9年10月刊

水戸學の新研究

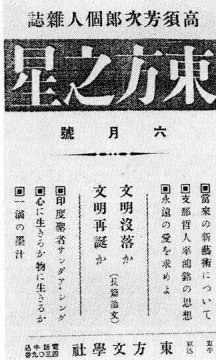
「水戸學の新研究」
昭和10年7月刊



「藤田東湖伝」
昭和16年10月刊



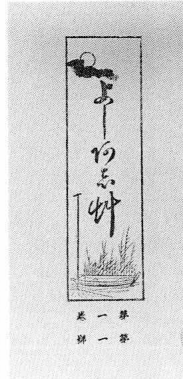
「日本時代」創刊号
昭和3年11月
(高須梅之助氏蔵)



「東方之星」創刊号
大正14年6月
(高須梅之助氏蔵)



「関西文学」
創刊号
明治33年8月



「よしあし草」
創刊号
明治30年7月



「源氏の人々」
大正9年9月刊



「近松の人々」
大正3年1月刊



「西鶴の人々」
大正4年7月刊



「郷土関西」創刊号
昭和12年5月

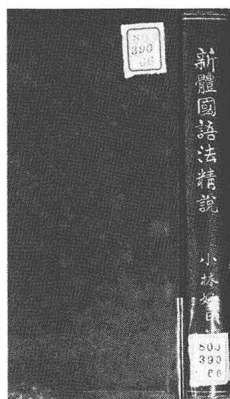
小林好日



「金槐集評釈」
昭和2年5月刊



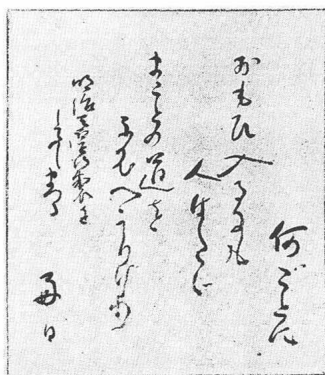
肖像画 花輪一郎画
(小林好吉氏蔵)



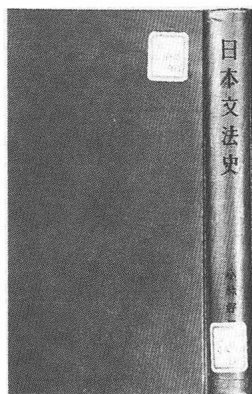
「新体国語法精説」
大正13年10月刊



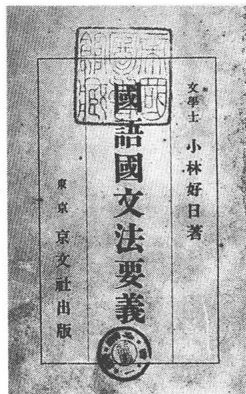
「標準語法精説」 大正11年10月刊
(国立国会図書館蔵)



自筆色紙
(東北大学記念資料室蔵)



「日本文法史」
昭和11年9月刊

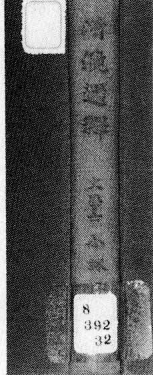


「国語国文法要義」
昭和2年3月刊
(国立国会図書館蔵)



書簡 一飯田きよみ宛一
(飯田葉子氏蔵)

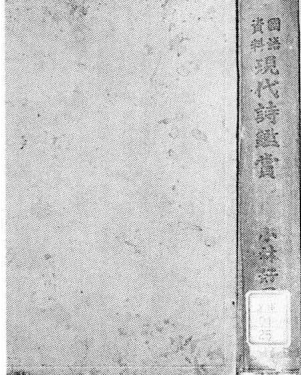
一掲載書籍一
昭和女子大学蔵



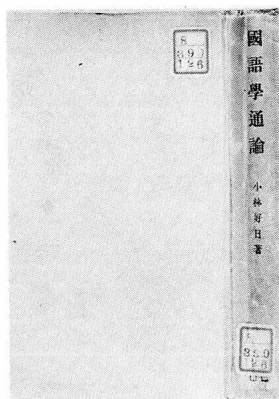
「増鏡選釈」
昭和4年6月刊



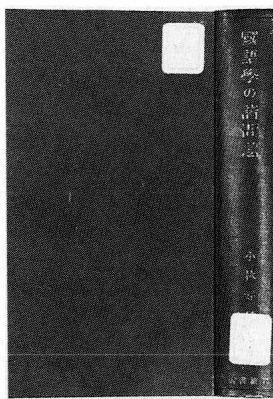
「参考増鏡新釈」 昭和3年5月刊
(国立国会図書館蔵)



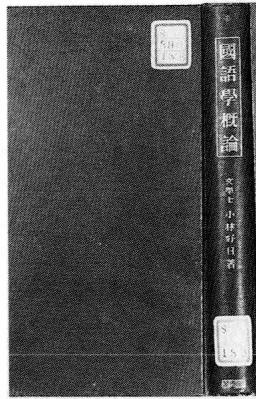
「国語資料 現代詩鑑賞」
昭和2年8月刊



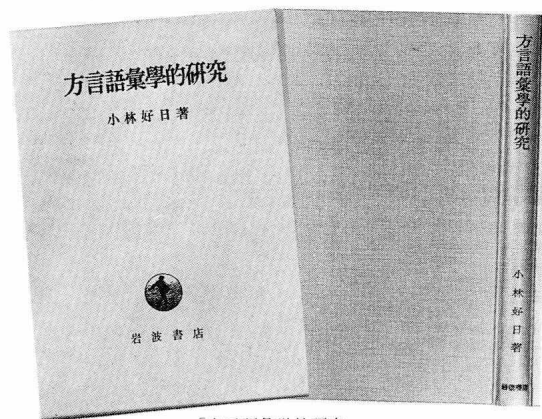
「国語学通論」
昭和19年12月刊



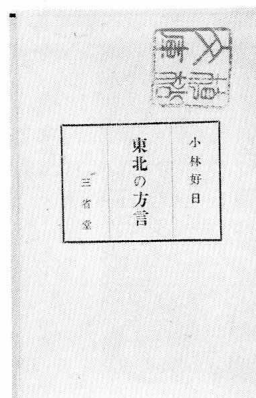
「国語学の諸問題」
昭和16年8月刊



「国語学概論」
昭和5年6月刊



「方言語彙學的研究」
昭和25年11月刊 (小林陽彦氏蔵)

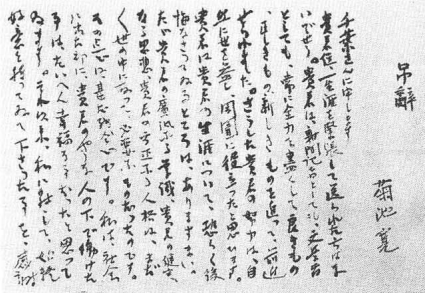


「東北の方言」
昭和19年3月刊

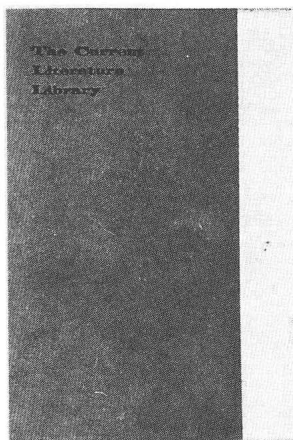
菊池寛



銅像（高松市中央公園内）



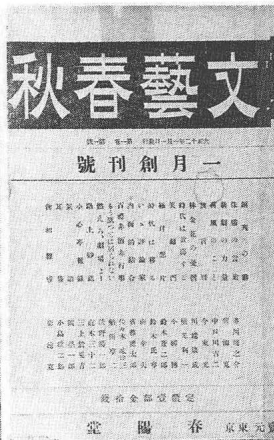
自筆吊辭（千葉泰二氏藏）



「恩を返す話」
大正7年8月刊



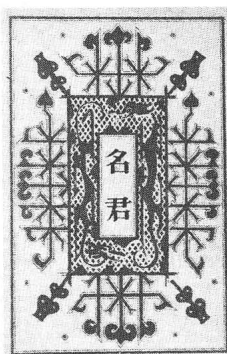
文芸春秋 オール読物号
昭和6年4月



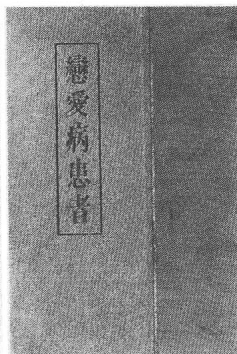
文芸春秋 創刊号
大正12年1月



「明眸禍」
昭和5年4月刊



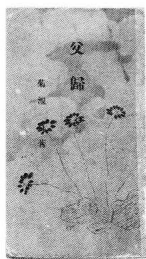
「名君」
大正13年10月刊



「戀愛病患者」
大正13年9月刊

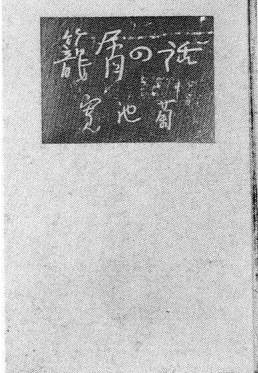


「極楽」
大正9年7月刊

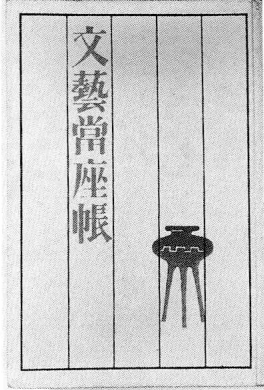


「父帰る」
大正11年4月刊

一掲載書籍一
昭和女子大学蔵



「話の屑籠」
昭和9年8月刊



「文芸当座帳」
大正15年6月刊



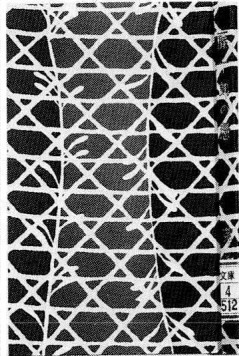
「文芸往来」
大正9年6月刊



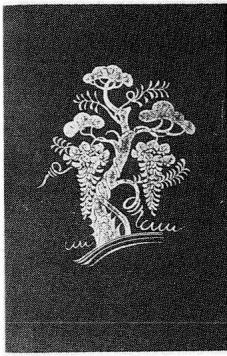
「仇討禁止令」
昭和18年3月刊



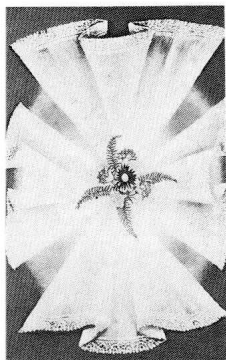
「仇討新八景」
昭和7年1月刊



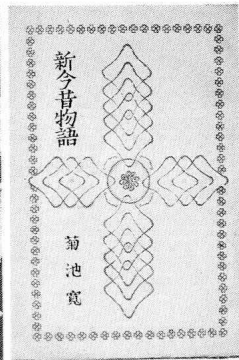
「藤十郎の恋」
大正13年6月刊



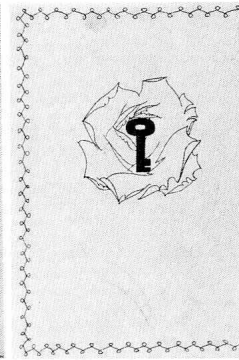
「袈裟の良人」
大正12年2月刊



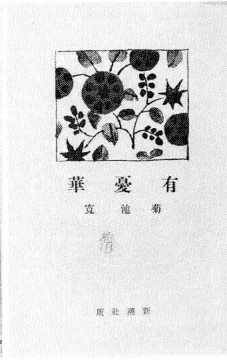
「珠を争う」
昭和31年1月刊



「新今昔物語」
昭和23年7月刊



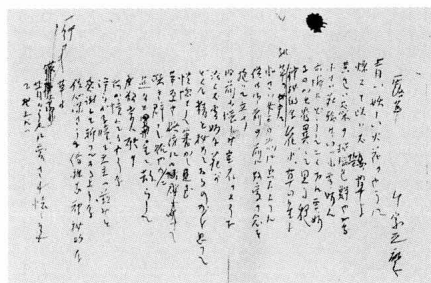
「貞操問答」
昭和10年2月刊



「有憂華」
昭和6年4月刊

千家元麿全集 上巻

千家元麿全集 下巻



露草 詩稿

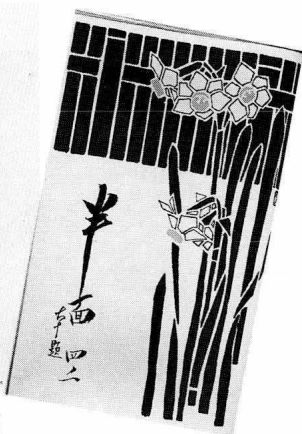
千家元麿



白 樺



第六年四月號



右 半面 明治38年11月
中 白樺 大正4年4月
左 エゴ 大正4年9月

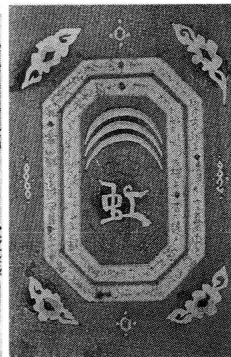
一掲載書籍一
昭和女子大学蔵



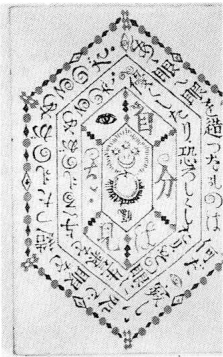
「新生の悦び」
大正10年10月刊



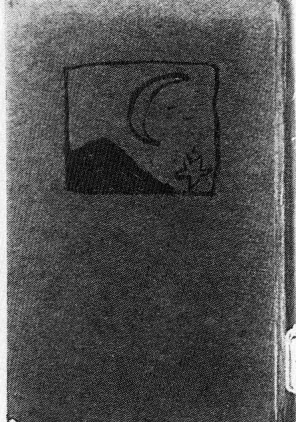
「太陽の愛」
大正10年7月刊



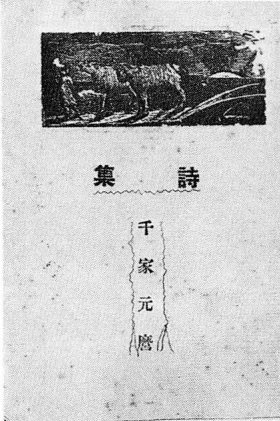
「虹」
大正8年9月刊



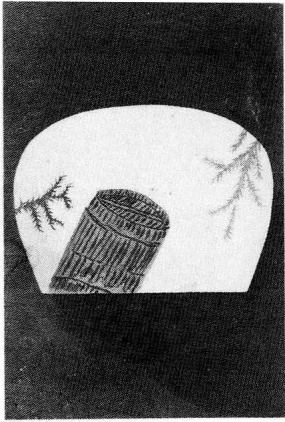
「自分は見た」
大正7年5月刊



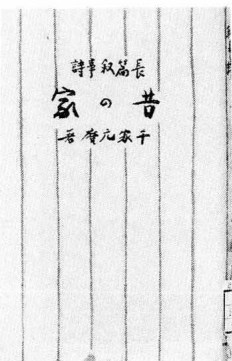
「影」
昭和6年3月刊



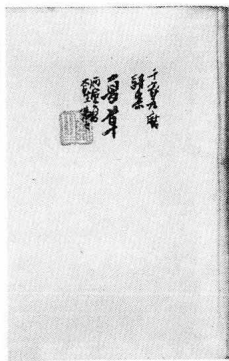
「詩集」
大正12年2月刊



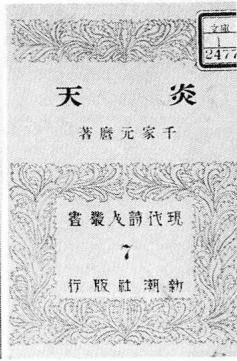
「野天の光り」
大正10年4月刊



「昔の家」
昭和4年6月刊



「夏草」
大正15年7月刊



「炎天」
大正11年8月刊



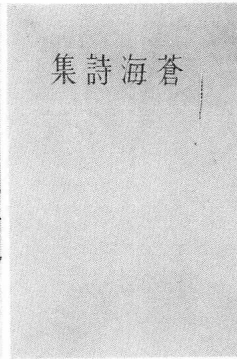
「夜の河」
大正11年7月刊



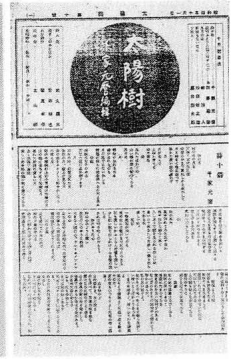
文芸新誌
昭和21年8月
(川崎玄氏蔵)



「詩、美、自然」
昭和18年5月刊

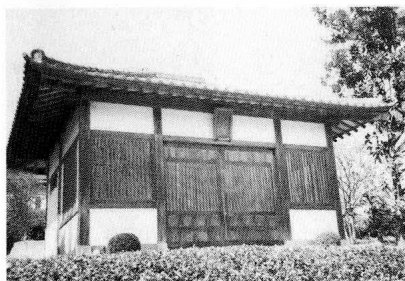


「蒼海詩集」
昭和11年8月刊



「太陽樹」
昭和4年10月刊
(埼玉県社会教育課蔵)

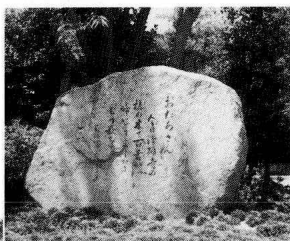
遺跡をたずねて



大愛堂—埼玉県新しき村納骨堂
(千家元磨分骨)



小林好日墓所
妙寿寺(東京都)



菊池寛文学碑
(高松市中央公園内)



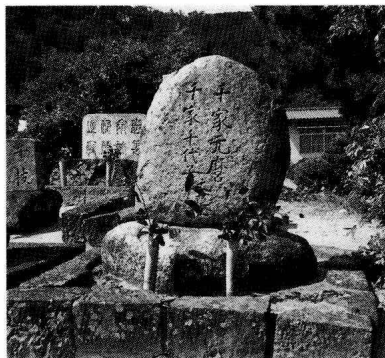
菊池寛歌碑
(千葉県JR岩井駅前)



高須梅溪墓所
東京本願寺ひばりが丘浄苑墓地(東京都)



菊池寛墓所 多磨霊園(東京都)



千家元磨墓所(出雲市)

目次

口 絵		一
『近代文学研究叢書』の成立		三
凡 例		一五
高 須 梅 溪		一七
小 林 好 日		一七
菊 池 寛		一七
千 家 元 曆		四五
PROFILES		五三
卷末付記		五九
第六十二卷年表補遺		五四
索 引		五四

『近代文学研究叢書』の成立

『近代文学研究叢書』は昭和三十一年一月、昭和女子大学光葉会からその第一巻が発行された。以来、明治期全十二冊、大正期全十三冊、昭和期が本巻を加えて三十八冊を刊行、続刊中である。

本叢書は、創立者人見圓吉（東明）が建学の精神に基づき優れた研究者の養成を目的とし、これによって文学日本の近代相がいささかでも究明出来ればという強い願望により創められたもので、本学学生による近世の国文学者、洋学者についての研究調査をまとめた『文学遺跡巡礼』（昭和十三年十月、第一輯発行）が母胎となっている。

昭和二十年、戦争も末期に近づいた四月の大空襲により、本学は校舎とともに蔵書と未発表原稿の一切を焼失した。青年時代、三木露風、野口雨情らとともに早稲田詩社をおこして活躍したかつての詩人東明は、この時から明治の詩書をはじめ近代文学関係の文学書の蒐集にとりかかり、現在の近代文庫の基礎が固められた。神田の古書展では「文学書の値をつり上げる」という評判が立つほどの蒐集ぶりで、こうして蒐められた典籍をもとに近代の文学者、思想家約八百名の伝記、業績に関する資料文献の老大なカードの作成には日本文学科の学生が総動員され、『近代文学研究叢書』の基礎的資料の基盤が築かれたのである。なお、母胎となった『文学遺跡巡礼』はその名の示す通り、生涯と業績に加えて遺跡の実地踏査、遺族の訪問記を特色としたが、本叢

書はこの特色をそのまま踏襲している。すなわち、文学者の遺族を訪ね墓所や遺跡を踏査することによって、業績を含めたその全体像を闡明しようとするものである。また、著作と資料に関する年表調査も平行的になされ、網羅的な資料蒐集に意を注いでいる。業績については各専門分野における学界の権威に指導を仰ぎ、特に、発足当時の基礎固めには月曜会（学内における近代文学の研究）での研鑽が大きな支えとなった。

第一巻では明治三年二月歿のB・J・ベッテルハイム、八田知紀、S・R・ブラウン、J・R・ブラック、成島柳北、森有礼、新島襄、佐佐木弘綱、中村正直ら九名が収められ、以後歿年順に収録された文学者、思想家はこれまでに三百余名を数え、本巻を以て通巻六十三冊に及んでいる。その間、第六巻発刊の昭和三十三年に本叢書は菊池寛賞を受賞している。

なお、創刊当初から監修者として叢書の全般にわたりご指導、ご助言をいただいた方ですでに物故された諸先生を左に記して感謝の意を表したい。

秋庭 太郎（演劇学）	池田 亀鑑（国文学）	上井 磯吉（英文学）
太田 三郎（比較文学）	萩原井泉水（俳文学）	片桐 顕智（和歌文学）
金子 健二（英文学）	金子 武雄（国文学）	河鱒 実英（歴史学）
木俣 修（和歌文学）	木村 毅（比較文学）	斎藤 一寛（仏文学）
坂本由五郎（英文学）	佐々木八郎（国文学）	笹沢 美明（独文学）

佐藤 幹二(国文学)

山宮 允(英文学)

玉井 幸助(国文学)

辻村 鑑(英文学)

内藤 濯(仏文学)

成瀬 正勝(近代文学)

能勢 頼賢(国語学)

浜 徳太郎(美学)

人見 圓吉(近代文学)

本間 久雄(近代文学)

矢野 峰人(英文学)

吉田 澄夫(国語学)

石森 延男(児童文学)

本卷には、評論家高須梅溪(明治十三年四月十四日～昭和二十三年二月二日)、国語学者小林好日(明治十九年八月十九日～昭和二十三年二月十一日)、小説家、劇作家菊池寛(明治二十一年十二月二十六日～昭和二十三年三月六日)、詩人千家元麿(明治二十一年六月八日～昭和二十三年三月十四日)の四名の研究調査を取めた。